

仙台教区サポートセンター

福島デスクニュース

第27号 2016年11月

作成：仙台教区サポートセンター福島デスク
〒975-0001
福島県南相馬市原町区大町 2-197
fukushima.desk@gmail.com
Tel/Fax 0244-32-1531
080-5872-4447
<http://fukushimadesk.blogspot.jp/>

ほんとの幸を考える収穫祭

一般社団法人(非営利)「いぶき宿」 野上幸恵

東京・神奈川のボランティアグループ「いぶき宿」が福島県田村市の有機農家、大河原さんの畑に通い始めて3年、念願の「錦糸かぼちゃジャム」の商品化に漕ぎ着けました。

その打ち合わせの折に、「NPO 法人元気になろう福島」副理事長の本田さんに出会い、11月11日開催の「第35回結イレブン」にお誘いを受けました。当日はジャムを持参し、試食していただいたところ大好評でした。

さて、「結イレブン」は毎月11日、都内で開催される福島と東京を結ぶカフェイベントです。今回は「福島の食とお酒を堪能、大交流会」でした。イベント第一部「ふくしまの今を語る人」渡邊とみ子さんをご紹介します。



「飯舘村で暮らす」ということ

(渡邊とみ子さんの講演要旨)

活動の原点は、飯舘村での暮しです。1993年から「女性も地域のリーダーとなり、自分たちの地域のことは自分たちで考えていく」という地域づくりに関わってきました。

その後、市町村合併の話しが持ち上がり、合併するかどうかという中で、「飯舘村」を失いたくない気持ちと村の生活を続けたい気持ちから村長の諮問機関である「村民企画会議」住民代表として委員になりました。



「飯舘村で暮らす」ことを真剣に考えるようになり、地域づくりを具体的行動に移すため、夢と目標をもって具体化する思考回路を育てることができるようになりました。

イータテベイクじゃがいも研究会

2005年6月、冷害に強くイノシシに狙われるほど美味しい飯舘村オリジナルじゃがいも「イータテベイク」と「いいたて雪っ娘」(かぼちゃ)を飯舘村出身の育種家 菅野元一さん(元農業高校校長)から「自立を選んだ飯舘村の地域振興のために」と提供してもらい研究会会長として活動を開始しました。

加工施設の立ち上げ 2007年

多くの方が会を辞めていく中で、残ったメンバーの励ましと菅野元一さんの思いを胸に、自分たちにいわれた言葉に力を得て「外は雪、こたつに入って嫁・姑の悪口を言っているのではなく、智恵を出して1円でもお金になるもの考える。起きてしまったことを嘆いてばかりではなく、未来に対する対策を考える。世界に通用するじゃがいも、かぼちゃを飯舘村から発信する!」と、加工施設を立ち上げ

たのは2007年4月のことでした。

「仲良しグループ・サークル感覚では駄目。夢・目標が高ければその道は険しく長い道のりになる。しかし、一步踏み出さなければゴールはない」ということを学んだのです。

2010年、イータテバイク、種芋生産は国の正式認可を受けました。飯舘村のイータテバイクとして世の中に出すことができるようになったのです。

原発事故 すべて奪われてしまった

2011年3月、原発事故！今までのすべてが奪われてしまいました。飯舘村での生産ができなくなってしまったのです。しかし、こんなことで諦めるわけにはいきません。

事故から2か月後の2011年5月、避難先で畑を借りてイータテバイクといたて雪っ娘の種を蒔きました。未来につなげる種を穫るためです。収穫祭は避難先の人々も一緒でした。正に「感謝の宴」です。しかし、飯舘村に帰るたびに目にする加工工房の変り果て、朽ち果てていく姿に涙があふれました。

「カーちゃんのカ・プロジェクト」構想

2011年10月

地域づくりに関わっていた福島大学の先生から声をかけてもらい「カーちゃんのカ・プロジェクト」の構想を聞きました。原発事故で畑も加工場も奪われてしまって生きがいをなくしてしまったカーちゃんたちが、食に関する技や味を伝え、地域を元気づけることを目標にした活動のお話でした。

先が見えない中、マイナス思考で生きがいを失っているカーちゃんたちを一人一人訪ね歩いて、「結もち プロジェクト」を開催することになりました。それをきっかけにカーちゃんたちに笑顔が戻ってきました。「結」は人と人とを結び、地域と地域を結ぶのです。

プロジェクト開始 2012年4月

「カーちゃんのカ・プロジェクト」では、避難先で作った「いたて雪っ娘」を直売所に出すために、自分たちの基準を20 bq/kg（国の基準500 bq/kg）に決めました。カーちゃんたちは覚悟の上で、本当に安心して安全な食べ物を皆さんに提供したかったのです。

2012年4月には福島県地域雇用再生創

出・モデル事業としてカーちゃんたち12名を雇用し健康弁当、漬け物、お菓子などの製造販売が「あぶくま茶屋」でできるようになりました。地域の人達、福島大学の学生たちが大掃除、整備してくれて拠点ができました。

2012年6月一般社団法人福島カーちゃんのカネットワークが設立され、協議会との両輪でのプロジェクトとなりました。同年12月には福島駅前にレストランをオープンしました。今、カーちゃんたちはあぶくま食の遺産継承と普及に取り組んでいます。

渡邊さんは辛かった時、そして現場から学んだこととして詩を書きました。

あきらめないことにしたの

たくさん悔しい思いをしたよね
沢山、沢山泣いたよ
でも、生きている
やっぱり止まっては駄目だよ
どんなに小さな一歩でも前へ進んだら
ほらね。実ってくれたんだもの
植物は、こんな状況の中でも
頑張ってる生きているんだもの
だから私は
あきらめないことにしたの

これから 2017年避難解除

来年3月、飯舘村は避難解除になります。故郷に帰る人、帰らない人、帰りたくとも帰れない人、バラバラになるかもしれません。

私は「種を繋ぐ」という選択をしました。故郷に寄せる思いは誰にも負けないくらい強いけれど、選び取った、この選択によって飯舘村に帰ることはできません。しかし、未来につなぐ種はどこにいても「飯舘」を発信していくことなのだとの思いを強くしています。

2016年6月26日、夜が明ける前からの仕事で、夜明けの風景に渡邊さんの心にさした希望。

希望

暗闇の中から僅かな光を探してきました
辛くて、悔しくて、沢山泣きました
幾多の困難や試練の中でも
必ず夜明けはやってきます

(一般社団法人(非営利)「いぶき宿」 野上幸恵)